

夏真っ盛りとなり、セミの声がにぎやかに聞こえています。

先日は、いちごぐみとあんずぐみ、きういぐみの保育参観にご参加くださり誠にありがとうございました。たくさんの方に見ていただき、はりきる子や甘える子など姿は様々でしたが、普段の保育ではどのようなねらいを置いて保育をしているのか、という視点を示していたので、実践の様子が分かったのではないかと思います。後日、素敵な感想をいただいています。すべて紹介したいのですが、紙面の都合もありますので、いくつかご紹介したいと思います。

- ☆ 普段の様子が見られて良かったです。保育園効果で人見知りや和らいだり、できることが増えていて、すごいなと感動です。日々、丁寧に関わってくださりありがとうございます。
- ☆ とても楽しく参加させてもらいました。意外と肝が座っていて驚きでした。先生方も計画、準備、お疲れさまでした!! 家でも協力できることは何でもしたいと思っているので、園で取り組んでいること、練習していること等あればまた教えてください。
- ☆ ずーっとママにべったりな〇〇でしたが、きっと普段はお歌や手あそびを全力で楽しんでいるんだろうなあと思えました。
- ☆ 子どもの成長をたくさん知ることができました。人見知りが激しく、よく泣いていたのに、中央でみんなの前で踊ったり、先生と楽しそうに関わっている姿を見ることができてとても安心しました。
- ☆ 今日見ていたらお友だちにちゃんとおもちゃも貸していたり優しい面もあるので安心しました。
(中略) 少しずつ「イヤイヤ」もなくなってきているのでもう少しこの「イヤイヤ」を楽しんでいこうと思います。
- ☆ 日頃の過ごし方やお友だちの関わりなど見られて良かったです。おもちゃのとりあいごやつくったものができあがるとすぐ先生に大きな声で報告しているのだとわかりました。おやつを食べ終わると自分で食器を運んだり…… (中略) 保育園では、しっかり自分でできていて楽しく遊んでいるのだと思いました。

たくさんのご感想をありがとうございました。小さな3歳未満児でも相応にしっかり社会性が育っていることが皆様の言葉から読み取れました。また、たいへんな「イヤイヤ期」を大らかに構えられる保護者の方がいらっしやるのがわかり、頼もしさを感じました。皆様のお言葉を励みに、さらに精進してまいりたいと思います。

さて、8月の大きなめあては「きらきらと」です。保育参観でご覧になられたように、子どもは夢中になっているときはきらきらと輝いて見えるものです。いつも一人一人の子どもが輝いて見えるように、職員一同子どもにまっすぐ関わっていこうと思います。



<8月の予定>

- 8月 4日(月) 身体計測週間(～8日、すもも・かりん・れもんぐみ)
保護者保育体験(～8日)
- 8月 5日(火) ミニピザクッキング(れもんぐみ)
- 8月13日(水) 避難訓練(地震から火災想定、8時40分)
- 8月16日(土) お弁当日🍱
- 8月18日(月) 身体計測週間(～22日、いちご・あんず・きういぐみ)
- 8月25日(月) 誕生会
- 8月26日(火) 健康診断



コラム70：子どもの噛みつきについて

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

家で子どもが急に周りの子どもを噛むようになって困っているという相談を受けました。噛みつきについては、園の生活でも悩んでいる先生が時々いますので、この機会に子どもの噛みつきの原因や噛みつきへの対処の仕方について考えてみたいと思います。

まず始めに、子どもの噛みつきが起きる原因について考えてみます。噛みつきの一番の原因は、子どもの身体的な発達との関係です。1歳から2歳になると手よりも口の方が早く発達してきます。そのため、自分の意思を伝えたい時に、とっさに噛みついてしまうのです。

二番目の原因は、歯茎がかゆくなることです。歯が生えてくると歯茎がムズムズと痒くなり、何かものを噛んでかゆさを紛らわせようとするのです。

三番目の原因は、まだ自分の思いを言葉ではうまく伝えられないので、言葉を使わずに自分の意思を伝えようと噛みついてしまうのです。

四番目の原因は、他人との関わり方が、まだよく分からないということです。子どもは挨拶や楽しい気持ちの表現として噛みついてしまうのです。また、興奮して戯れるような気持ちで噛みつくようなこともあります。

五番目の原因は、甘えたい気持ちの表現です。お父さんお母さんなど身近な親しい人に噛みついてしまう場合は、このことが原因であると考えられます。特に、お父さんお母さんが仕事や家事で忙しいとかまってもらいたくて噛むようなこともあります。

六番目の原因は、気持ちが不安定になって噛みついてしまうことがあります。噛みつきが見られるようになった時は、体調や家庭環境、園の環境にも目を向けると要因に気づくことがあります。

七番目の原因は、噛みつきを相手への攻撃手段として使ってしまうことです。子ども同士の喧嘩の中では、相手を叩いたり蹴ったりするとともに噛みつくことも攻撃手段として出てきてしまうのです。成長の中で自然にでてくる子どもの噛みつきは、主に3歳までですが、攻撃による噛みつきは3歳以降でも見られることがあります。

次に子どもの噛みつきへの予防策を考えていきます。一番目は、噛んでも大丈夫な玩具を与えることで、この方法は歯茎のかゆさが原因の噛みつきにはとても効果があります。歯固めなどで使う、噛んでも安全な玩具を与えると噛むことがとても良い遊びになります。

二番目は、子どもからできるだけ目を離さないようにすることです。一時も目を離さず見ていることは難しいかも知れませんが、できるだけ子どもたちから目を離さないようにします。そうすると子どもの噛みつきを未然に防ぐことができるようになります。子どもが噛みつきそうな時には話しかけるなどして気をそらしてあげます。また日頃から子どもたちの様子を観察することで、どのような時に噛みつきが起きるのかということが子どもの表情や行動から推測できるようになり、なぜ噛みついてしまうのかという原因も見えてきます。

三番目は、子どもたちの密集を避けることです。子どもたちの遊ぶ空間が十分でないと、子ども同士の体がぶつかり合ったり玩具や遊具を奪い合ったりして満足のいく遊びができず、気持ちが不安定になりやすくなります。子どもたちの人数に合わせた場所と空間を用意してあげると子どもたちが思いっきり遊べるようになり、噛みつきは起こらなくなります。

四番目は、子どもたちが不安定にならないように、コミュニケーションや子どもとの触れ合いを増やすことです。特に、弟や妹が生まれた時は、子どもがお母さんを取られたような寂しさを感じやすくなりますので、意識的に子どもと触れ合う時間を取る必要があります。コミュニケーションは量より質の方が大切ですので忙しい日々の生活の中でも子どもにしっかり愛情を伝えるようにします。

最後に子どもの噛みつきへの対処について考えていきます。まず初めにすべきことは怪我の手当です。噛んだ場所を洗い流し、患部を冷やすことで、炎症反応を抑えます。冷やす時は氷嚢や氷と水を入れたビニール袋、保冷剤などを必ずタオルにくるんで使います。子どもはじっとしているのが苦手ですが、最低でも5分間は冷やすようにします。できれば皮膚の感覚がなくなるくらいまで冷やすのが良いようです。出血が多かったり傷が深かったりする場合は、必ず医療機関を受診するようにしてください。

二番目には、噛んでしまった子に対してはすぐに叱るのではなく、一度その子の気持ちに寄り添ってあげることが大切です。子どもの気持ちが落ち着くの待ってから、なぜ噛んでしまったのか聞いたり、噛まれた子は痛いんだということを伝えたりします。ここではそのタイミングが大切で子どもの対応を後回しにしてはいけません。後からでは、子どもはいわれていることが何のことかわからなくなってしまうからです。

三番目には、噛んでしまった子だけでなく、噛まれた子への声掛けも忘れないようにします。まずは噛んでしまった子と同じように、「急に噛まれて痛い」という気持ちに寄り添いながら「どこを噛まれてしまったのか」ということを確認する必要があります。この時、噛んでしまった子どものお詫びの気持ちも優しく代弁してあげることが大切です。

今回は、子どもの噛みつきの原因や予防法、さらに対処法について考えてきました。ここでは、子どもの噛みつきの原因を考えることによってどのようにしたら改善するのかという方法が見えてきました。それとともに、子どもの噛みつきを防ぐために子どもたち一人ひとりに合わせた対策も考えることができました。ここでの提案が子どもの噛みつきで困っている皆さん方の参考になることを願っています。